

AMDA 菅波代表 ハイチへ

大地震が襲ったハイチでの緊急医療支援を始めた国際医療NGO「AMDA(アマダ)」(本部・岡山市)は19

日、第2次医療チームとして代表の菅波茂医師らが現地入りすると発表した。被害が甚大なうえ、同国の政府機能がまひして治安も悪化しており、菅波代表がチームの陣頭指揮を執る。緊急医療支援で菅波代表が被災地に入るのは、1984年の発足以来初めて。

20日に岡山大病院の朴範子医師と出発し、21日に空路でハイチの隣国ドミニカ共和国に到着。その後、ハイチの首都・ポルトープランス近くやドミニカで活動中の第1次チーム4人と合流する。菅波代表は「世界保健機関(WHO)やドミニカの日本大使館などと協議

して医療支援態勢を整え、1人でも多くの人を助けた」と話している。

災害支援隊創設 県職員ら業務支援

兵庫県が来年度

阪神大震災の経験を生かし、兵庫県は2010年度、自然災害で被災した県内の市町の業務を県職員らがバックアップする「ひょうご災害緊急支援隊」(仮称)を創設することを決めた。災害発生直後に被災地に派遣して役所の機能停止を最小限に食い止め、速やかな被災者支援につなげる。

県によると、支援隊は、県職員を中心に県内市町の職員らで構成する。日頃から防災訓練に参加させ、災害時に呼び出して被災地に派遣。現地で避難所の開設